電子化委員会報告

電子化委員会委員長

斉藤 孝明 Takaaki SAITO

1. はじめに

図学会会員にこの10年で学会の大きく変わったことを挙げてもらうなら、おそらく Web ページによる情報提供が第一に来るのではないかと思うほど、Web ページ（ホームページ）の重要性は増している。その Web ページのみならず、問い合わせ窓口としてのメールの管理を受け持っているのが電子化委員会である。電子化委員会は、基本的には裏方に徹する委員会であり、会員には活動の実態が知られていないであろうことは容易に想像がつく。

ここでは紙面をお借りして、電子化委員会の活動について説明すると共に、会員の皆様への日々のご協力もお願いする次第である。

2. 電子化委員会の歴史的経緯

表1に見られるように、電子化委員会設立が提唱されたのは Windows95ブーム真っ只中の1996年3月である。第315回理事会（1996年3月）において『電子化情報検討委員会』（という情報が議事録を検索すると簡単に見つかること自体、電子化委員会の作業の結果なのだが）の設立が検討され、（当時）埼玉大学の近藤先生・佐藤尚先生、青山学院大学の佐久田先生らを中心にその活動が始まり、埼玉大学にて日本図学会の Web ページ（ホームページ）が開設される。2000年の日本図学会大会の会場ではアンケート用紙が配られ、それまでの Web ページの使い勝手などの調査が行われた。その結果、長すぎるアドレスへの指摘など改善を要する点がいくつか見つかり、2001年5月のドメイン取得につながっていく。

Web ページは情報を提供する手段であるが、情報を集める手段としてメーリングリストの開設も行われた。当初開設された理事会用メーリングリストだけでなく、編集委員会や事務局の窓口としてメーリングリストが利用されるようになり、会員の利便性は飛躍的に向上した、はずである。さらに、編集委員会においては電子化委員会との共同作業として図学研究の PDF 版の公開や

投稿・編集作業のペーパーレス化といった方向にも進んでいる。

表1 電子化委員会の歩み

1996年3月	電子化情報検討委員会の設置が理事会で検討される
1996年11月	北海道支部が Web を開設
1997年6月頃	埼玉大学の Web サーバ上で日本図学会の Web 公開開始
1997年7月	Web で理事会議事録の公開を開始
1998年7月	図学会 Web サーバを東京大学に移設
1998年9月	理事会用メーリングリストの運営を開始
2001年5月	jsgs.org ドメインを取得 一般会員・委員会用メーリングリストの運営を開始
2001年9月	図学研究の投稿規程を論文の Web 公開を見越して改定
2006年2月	PDF 版図学研究の一部公開を開始

3. 電子化委員会の現状と直面する課題

現在、電子化委員会が管理しているサービス・コンテンツには以下のものがある。

○Web ページ（ホームページ）

- ・図学会等の広報
- ・図学会の資料提供
- ・図学研究の公開

○メーリングリスト

- ・会員への広報
- ・委員会への連絡
- ・論文の受付窓口

これらのサービス・コンテンツは、創設当初は利便性の増大に輝かしい未来を想像できたが、近年のインターネットがらみのセキュリティの問題と無縁であろうはずもなく、現在抱えている（日々苦闘している）セキュリ

ティ系の課題は以下のようなものである（括弧内数字は後述）。

○Web

- ・サーバの乗っ取り……………(1)
- ・サーバのサービス停止攻撃……………(2)
- ・個人情報の流出……………(3)

○メーリングリスト（メール）

- ・スパムの配信……………(1)(3)
- ・個人情報等の不適切な内容のメールの配信……………(3)

○エンドユーザーセキュリティ

- ・ウィルスの感染……………(1)(2)(3)
- ・個人情報（事務情報）の流出……………(3)

これらの問題点は大きく3つに集約される。

- 1) 他者への被害をもたらすもの
- 2) 学会のサービスが停止するもの
- 3) 会員の権利を侵害するもの

2) はともかく、1) と3) は最大限の努力により阻止すべきものである。特に1) はWebサーバが乗っ取られて悪用された場合に損害賠償請求を受ける可能性もあり、非常に頭の痛い問題である。また、メーリングリストを通じて個人情報等の不適切な内容のメールが流れる(3)の問題も大変好ましくない。一例を挙げると、

(a)私的な事項を述べたメールがメーリングリストに流れる。

(b)本名とメールアドレスを大量に列挙したメールが送信される。

といったものがある。前者の何が問題なのかは説明するまでもないと思うが、後者はメールアドレスを本人の許可なく多数の人に伝達してしまうという点で問題がある。メールアドレスを電話番号に置き換えて、『自宅の電話番号をA先生に教えたら、A先生が勝手に電話番号簿をつくって、図学会会員に流布した』と例えれば問題の深刻さを理解していただけるだろうか。個人情報の保護については高校・大学の情報リテラシの授業で習うことなのだが、いかんせん、いま現在の図学会の会員の大部分は情報リテラシとは無縁の時代を生きてきた方々であり、電子化委員会が啓蒙を行わなければならないのか？と悩むところである。

4. 将来構想

今後の課題であるが、会員・非会員と問わず図学関連コンテンツを共有する『図学ライブラリ』の充実といっ

たコンテンツ面の整備や、より一層のセキュリティの強化が当面の課題であろう。一方で、サービス・コンテンツの拡充は重要課題ではあるものの、さて具体的にどうするかといった場合にはなかなか大変な問題がある。

『誰がするか？』という問題である。充実させるにはそれなりに労力がかかるが、特定の個人に依存するわけにもいかない。各委員会・各支部からそれぞれ人的資源（＝時間と労力）を提供していただき、サービス・コンテンツの充実を図っていきたい。幸い、ネットワークに地理的距離はほとんど関係が無いのだから。

委員会・支部のみならず会員各位からも、良いサービス・良いコンテンツの実施案を御提案いただければ幸いである。